

HSC017-09

会場: 202

時間: 5月24日16:00-16:15

農村空間における空き家の管理と集落の対応：島根県江津市を事例として

A study on management for vacant houses in settlement of rural spaces : A Case study of Gotsu city, Shimane prefecture

作野 広和^{1*}

Hirokazu Sakuno^{1*}

¹島根大学

¹Shimane Univ.

農村空間における深刻な問題の1つとして、空き家の増加が挙げられる。空き家は、農村空間における過疎化・高齢化によって生じるが、その管理のあり方が問われている。すなわち、空き家となっても管理が適切に行われている場合、所有権のある後継者が再利用したり、移住者によって使用されたりする可能性が増えるからだ。だが、実際には空き家の管理のあり方は多様である。

そこで、本研究は農村空間において多数みられる空き家が、集落においてどのように管理されているのかについて明らかにすることを目的とする。その上で、農村の定住対策として空き家を利活用することの可能性について検討する。以上のような点を検討することにより、空き家が流動化することで「農村空間の商品化」が進行する際の課題を浮き彫りにする。研究対象地域として、過疎化・高齢化が著しい島根県江津市を選定した。

主な結果は以下の通りである。

第1に、後継者や転出世帯は空き家を所有し続けるという意思を有しているものの、空き家の管理自体にはそれほど熱心ではないことが明らかになった。その理由として、集落から離れて居住していることが挙げられる。その結果、時間が経過するにつれ、空き家は荒れていく傾向にある。したがって、空き家の管理状態は、空き家所有者の居住地と関係するといえる。

第2に、空き家の管理者は世帯の後継者や血縁関係者に限定されていないことが明らかになった。そのため、もし集落内で空き家の管理者が見つかった場合、空き家の管理は管理者の世代に関係なく維持されるといえる。

さらに、集落において空き家を継続的に管理できる主要な要因は2点に集約できた。その1つは血縁者であろうと、集落住民であろうと、管理できる空き家の数には限度があるということである。2つ目は、同一ないしは隣接する町村にいる後継者や関係者の存在が重要であるという点である。すなわち、空き家の管理については、集落内における居住者の人間関係が重要なのである。主に血縁者が居住する近隣地域における人間関係は、空き家の管理に対してインセンティブを与えることになる。

以上の点から、農村空間において利活用が可能となるよう良好な状態で空き家の管理を継続させるためには、空き家所有者と集落住民との人間関係を維持し続けることが重要であることが明らかとなった。

キーワード: 農村空間, 空き家, 集落, 江津市, 日本

Keywords: rural spaces, vacant houses, settlement, Gotsu city, Japan